



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 〇秘書課 ☎36-7117

今月のテーマ 台風19号の対応と地域防災力の向上

先月、東海・北陸・関東・東北地方に甚大な被害を及ぼした台風19号については、皆さんも記憶に新しいことと思います。早めの行動で多くの人の命が助かった反面、逃げ遅れによる犠牲もたくさん出ました。また、天候の急変に気象警報や行政の避難情報が間に合わず犠牲となった人がいる一方で、命からがら逃げおこせた人もいました。島田市もあと2・3時間、豪雨や暴風が続いた場合、更に大きな災害が発生した可能性がありました。(市内の被害は、床上浸水8棟、床下浸水14棟、道路冠水11件、道路に崩土多数、河川溢水2件、河川増水4件、倒木14件、一部停電1地区)



東光寺谷川付近の増水

今回の台風19号は、平地部では400ミリ以上の豪雨となったものの、山間部では極端な豪雨とならず、そのため大井川の水位が上昇しなかったことが、ダムの緊急放流や中小河川(大代川・伊太谷川・大津谷川・東光寺谷川)の氾濫につながらなかったといえます。また、12日朝6時にいち早く「避難勧告」を出したことが、市民の迅速な避難行動に大変有効でした。過去の「避難勧告」では0.05%ほどの市民しか避難しませんでした。今回は市民の約1% (1,000人近く) が指定避難所へ避難し、地区公会堂へも相当数の市民が自主避難しました。

さて、台風が過ぎ去って間もなく、「台風19号のとき、早いうちに避難しろと広報していたが、やみくもに避難しろではわからない。市民全員が避難できる場所はどこにあるのか?もっと具体的に指示を出してもらいたい」という市長への手紙が届きました。自らの命は自ら守ることが鉄則です。そこでもう一度、皆さんにご自宅や会社の危険度をチェックしてほしいという思いから、この原稿を書いています。

まず、全世帯に「洪水ハザードマップ」を配布していますが、お手元にあるでしょうか。もしなければ、市のホームページをご覧ください。支所や公民館・公会堂に地区ごとのハザードマップが掲示してありますので、ご自宅が浸水



ハザードマップQR

想定区域であるか否か、土砂災害警戒区域に指定されていないか、などをご確認ください。もし、ご自宅が浸水想定区域内で、豪雨や台風が予想される際は、河川などから離れた場所、高い所、丈夫な建物に早めに避難してください。豪雨や台風の最中に逃げることは、かえって危険です。そのときは垂直避難等(建物の上の階へ、崖から離れた部屋へ)を行ってください。地区ごと、家庭ごとに台風・豪雨対応タイムライン(台風接近3日前から通過後までの準備や行動、被災状況の確認手順)を整理しておくことも有効です。

市は、台風19号の襲来が予想されたときも1週間前から情報収集を行い、被害想定や住民生活への影響などを継続して分析し、3日前から同報無線などで広く市民へ注意喚起し、さらに全ての自治会長に電話を入れて情報提供・注意喚起を行いました。11日の午後4時には、市内39カ所の指定避難所を開設するとともに、地区の公会堂を解放してもらい、市内全域に自主避難を求めました。また、10月12日には、前日に設置した情報連絡室に続き、庁内に水防警戒本部(60人規模)を立ち上げ、国土交通省河川事務所、県土木事務所、警察、消防、中部電力、消防団などと密に連携を図り対応しました。さらに、事前準備から台風通過による豪雨終息まで、自治会、自主防および消防団がしっかり現場対応してくれたことも、心強いことでした。土のうステーションもフルに活用されたと聞いています。



本部運営訓練

近年、毎年のように豪雨等による激甚災害が起こるようになり、国・県に対しては道路や河川改修の要望を頻繁に行っています。しかしながら、ハード対策だけでは人命を守ることができないのも事実です。必要な情報と生き残る術は、自らが獲得する習慣を身に付けてください。また、障害者や高齢者がお近くにお住まいの場合は、連携して助けてください。古来より、大井川の洪水との戦いを経て、生き残る知恵や勇気を身に付けてきた島田市民には、その底力があると信じています。

※今月の「みんなのひろば」はお休みします。